

・2020年7月15日（水）行政、区議会・災害対策委員、住民一緒になって

避難所までの経路を歩いて経験する会を開催

① 参加者

区危機管理室 職員2名、

区議会・総合災害対策等特別委員会

委員（都民ファースト）しもだ 玲さん

（立憲民主） 富田 けんじさん

都議会議員（村松 一希さん代理）平野和邦さん

民生委員・関町北4・5丁目町会副会長 佐藤 和

子さん

武蔵関を考える会 奥原、古屋、白戸

② 活動

当該水害危険地域から関町北地区区民館（水害発生時の避難所）関中学校(震災発生時の避難所) までの避難経路を歩く。地形や道路・坂の勾配、側溝状況等、自ら経験確認する。

② 提起した問題点と要望

\* 避難所までの道のりは遠くしかも高台にあり、高齢

者には困難・行かれない。

故にもっと近隣に一時緊急避難所の開設が必要ではないか。

候補として風の道公園隣接の都営住宅集会所(北4丁目23)、憩いの森(北4丁目21)の2か所を挙げた。

\* 気軽に救助援助を依頼できる住民間の緊密な関係を構築する必要。

住民間の関係を密にするための活動拠点として駅周辺に住民のための広場が必要。

\* 道路上方向から流れる雨水とともに落ち葉や雑草ゴミで詰まる側溝の清掃を頻繁に。

上に置かれた鉄板やゴム板で排水口ふさがれている側溝を掃除する必要性。

\* さらに水害の危険は駅周辺にもあるのではないかと問題提起。

現在、区で計画中の補助230号線、青梅街道から新青梅街道まで西武新宿線を横断する幅16mの道路の武蔵関駅付近は谷底になっている故、水害の最も起きやすい場所である。

水被害の起こる可能性が大きいこの場所の道路整備事業は、あらかじめしっかりと防災対策を施したうえで行ってほしいと要望。

\* さらに、駅前交通広場・バスロータリー整備事業への要望として、以下を伝えた。

- ・ 駅周辺を防災対策の場にもするよう考慮してほしい。

- ・ 交通広場は単に駅を利用、通過するためのものではなく

立ち止まり、憩いの場としても機能するよう整備することを要望。

- ・ 住民同士が交流を深め、災害時には助け合い励ましあえる関係を作り出すことのできる広場。

そのためのイベント等を催すことのできる広場が必要ではないか。

行政が交通広場をこのように考えてくれることを願っている。

\* <グリーンインフラの提案>

国土交通省が提唱している「グリーンインフラ」は、降ってくる雨を単に雨水として流し処理するのではなく防災、減災、雨水対策をしながら資源として再利用していく国土利用計画であり、今後のまちづくり計画にも一考、参考にすべきと考えぜひとも検討していただきたく資料を添付した。

- ・ 2020年7月16日（木） 練馬区社会福祉協議会・ボランティア・地域福祉推進センター主催  
「防災シンポジウム・様々な防災の取り組み」にオンラインで参加